

わたしたちは、医の倫理と人道・博愛の赤十字精神にもとづき、みなさまの健康に奉仕いたします。

HAT CROSS

神戸赤十字病院広報誌
2007 vol.13

オペラコンサートが開催される！



昨年12月22日、今回で第4回目となる、恒例のクリスマスコンサートが開催されました。今年は、オペラ歌手の保坂正児さん、保坂博光さん親子、ピアノ奏者の矢崎普子さん、フルート奏者平尾多美納さんの4名をお迎えして、例年にも増して華やかかつ本格的なオペラコンサートとなりました。

コンサートに先立ち、昨年秋季に開催された、のじぎく国体のマスコットとして人気を博した「はばタン」がサンタに扮して登場し、子供たちも大喜び、会場の雰囲気盛り上げました。

オペラなんて初めて、という方もいらっしやったかも知れませんが、前半は「ふるさと」などの日本の唱歌や、「きよし



この夜、「赤鼻のトナカイ」など、おなじみのクリスマスソング、「エーデルワイス」、「ムーンリバー」といった映画音楽なども織り交ぜ、会場の皆さんも思わず一緒に口ずさむ場面もみられました。終始なごやかな雰囲気のなか、後半はいよいよ本格的なオペラコンサートへ突入。

「もう飛ぶまいぞこの蝶々」、「フニクリフニクラ」など、計4曲のオペラ・カンツォーネを披露していただき、会場いっばいに響き渡る、迫力あるお二人の歌声に会場の盛り上がりは最高潮に達しました。

実は、今回出演いただいた方々のお二人、バリトン歌手の保坂正児さんは、昨年3月、交通事故に遭われ、兵庫県災害医療センターと当院に入院され当



初意識不明の重症でしたが、見事、生死の境から生還、社会復帰されたというエピソードの持ち主でした。この入院がご縁となつて、今回コンサートに出演して頂けることになりました。ドラマみたいな話ですが実話です。

公演終了後、入院当時の主治医、当院脳神経外科、副部長 原淑恵医師からの花束贈呈が行われ、命の大切さ、生きていることのすばらしさといったメッセージがすべての曲に込められた、感動的なコンサートは幕を閉じました。



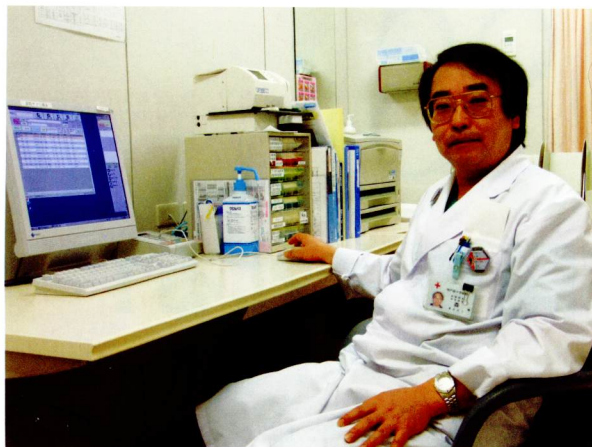
『軽いフットワークで対応!』

消化器医療センター設立で

他科との連携を強化

外科部長 森 隆

外科



森外科部長

外科は開院当初、常勤医 5 名で診療を開始しましたが、年々手術件数が増加しており、平成 19 年 2 月現在、常勤医 5 名、専攻医 1 名、研修医 1 名と人員を増やしてその任にあたっております。対象臓器は食道から肛門までの消化管、肝臓、胆道、脾臓の消化器と乳腺を中心に診療しています。他に体表のできものや炎症、外傷などの診療も行っています。当院は急性期病院で救急疾患診療にも力を入れております。外科でもスタッフ全員が軽いフットワークで対応して緊急手術を行っております。その結果、緊急手術が全手術件数の約 30% におよび、当院外科の特色ともなっています。また、最小の侵襲で最高の結果を得られる手術をめざして、腹腔鏡（補助）下手術も積極的に導入しており、胆嚢摘出術、大腸・直腸切除術、十二指腸潰瘍穿孔手術、腸閉塞手術などに導入しており成果を上げております。

年々社会の高齢化がすすむ結果として、手術を必要とされる患者様にもご高齢な方が増え、糖尿病や心疾患などの成人病を合併した方が増えております。当院では各診療科との連携がスムーズで、術前に各専門分野の医師と相談して術後合併症を回避するための対策をたててから手術に臨むようにしております。この点も当院の特色です。



後列左より）松森研修医、岸野医師、日置医師、黒川医師
前列左より）田村副部長、森部長、門脇副部長、岡本副部長

●手術件数

期間	H15.8.1 ~ 12.31	H16.1.1 ~ 12.31	H17.1.1 ~ 12.31	H18.1.1 ~ 12.31
	5ヶ月	12ヶ月	12ヶ月	12ヶ月
食道	4	2	3	3
胃・十二指腸	15	36(3)	53(8)	78(13)
小腸	3	5(1)	24 (1)	7
虫垂	15	47	51	76
結腸・直腸	32	66(8)	75(14)	100(19)
肛門	7	5	15	21
ヘルニア	18	17	50	100
肝	9	16	20	24
胆道	15	51(32)	71(54)	87(60)
脾	0	3	4	7
脾	0	0	1	1
腸閉塞	6	10(2)	13(1)	24
乳腺	8	5	20	12
その他	9	20	15	25
合計	141	283	415	565

※ () 内は腹腔鏡（補助）下手術件数

特色と自負しております。最後に、平成 19 年 3 月から消化器病センターを設立しました。その中では消化器科、放射線科、病理科、外科の連携をこれまで以上に深めて、ひとりひとりの患者様にあった治療計画をたてて、関連各科の特色を生かした集学的治療の一端を担った外科治療を提供させて頂きたいと考えておりますので、消化器疾患でお困りの方は是非ご相談ください。



SARS（重症急性呼吸器症候群）に始まり、鳥インフルエンザ、ノロウイルス…と毎年感染症が話題になりますが、感染予防の基本は「正しい手洗い」を行うことです。これは病院においても家庭においても、共通して言えることです。そこで、今回は「正しい手洗い」の方法をご紹介します。石鹸と流水、擦り込み式アルコール製剤のどちらを用いても、手順は同じです。

石鹸と流水の場合は、①最初に流水で十分に両手をぬらすこと、②石鹸をよく泡立てること、③流水で良く洗い流すこと（30秒）がポイントです。擦り込み式アルコール製剤の場合は、①最初に両手の爪先を十分に消毒すること、②アルコール製剤が乾くまで、手によく擦り込め込むことがポイントです。手洗いの手順（各10回ずつ）

①手掌を合わせよくこする ↓ ②手の甲を伸ばすようにこする ↓ ③指先・爪の間を入念にこする ↓ ④指の間を十分に洗う ↓ ⑤親指と手掌をねじり洗う ↓ ⑥手首も忘れずに洗う

1. 手掌を合わせよくこする



2. 手の甲を伸ばすようにこする



3. 指先、爪の間を入念にこする



4. 指の間を十分に洗う



5. 親指と手掌をねじり洗う



6. 手首も忘れずに洗う



「ひょうご安全の日」に E R U を 展 示

兵庫県では、阪神淡路大震災が発生した1月17日を「ひょうご安全の日」と定め、毎年、震災で犠牲となった方々への追悼式典を開催するとともに、メモリアルウォークや防災訓練の実施などの関連行事を開催しています。震災から12年目にあたる今年も当院は日本赤十字社兵庫県支部とともに参加し、なぎさ公園の会場にてD-E R Uの展示やA E Dを含む心肺蘇生法のミニ講習会を行いました。エアーテント内では、衛生電話などの通信機器を含む救護資機材や、災害時に被災者に配布される救護物資、並びにこれまで行った災害救護活動のパネル展示を行いました。また、支部職員並びに安全奉仕団のメンバーによる心肺蘇生法の講習会には多くの参加者がありました。



栄養課 だより

11



春は転勤、就職、受験、新学期に伴う精神的にも心理的にもストレスの多い季節です。ストレスは人生のスパイスと言われますが過剰なストレスは生活習慣病、心身病を進展させます。

ストレス太りと良く耳にしますが、ヤケ食いが生活習慣病に移行し肥満へとつながった事が原因です。食事は規則正しく摂り、間食は控えましょう。

必要な栄養素を過不足なく摂取することが重要です。良質なたんぱく質とミネラルが必要ですし、緑黄色野菜を十分に摂る必要がありますので、カリウム、ビタミンCは特に重要です。

塩分、脂肪の摂りすぎはストレス増強の原因となりますから注意が必要です。

身体も食事バランスが重要です。カリウムとビタミンCを多く含む献立の紹介です。

- 献立名 ①たけのこ飯
②焼き魚
③なすの鶏そぼろあんかけ
④清汁
⑤辛し和え
⑥果物

エネルギー 601 kcal
たんぱく質 32.4 g
脂 質 5.6 g



基本方針

1. 患者さまを中心として、人権と意思を尊重し、安心と満足が得られる医療を提供いたします。
2. 地域医療機関との連携を保ち、患者さまに一貫した医療を提供いたします。
3. 救急医療、災害救護活動、国際救援活動を行います。
4. 内外の医療従事者の育成に努めます。
5. わたしたちは、日々研修・研鑽し、明るく活力のある職場づくりに努めます。

神戸赤十字病院「患者の権利に関する宣言」

神戸赤十字病院は、医療の中心は患者さまであり、医療行為が患者さまと医療関係者との信頼関係の上に成り立つものであることを深く認識し、ここに、「患者の権利に関する宣言」を制定いたします。

当院の全職員は、この「患者の権利に関する宣言」を守り、患者さまの医療に対する主体的な参加を支援してまいります。

1. 一人の人間として、その人格・価値観などを尊重され、医療提供者との相互の協力関係のもとで医療を受ける権利があります。
2. だれでも、どのような病気にかかった場合でも、良質な医療を公平に受ける権利があります。
3. 病気、検査、治療、見直しなどについて、わかりやすい言葉や方法で、納得できるまで十分な説明と情報を受ける権利があります。
4. 十分な説明と情報提供を受け、納得したうえで、検査や治療方法などを自分の意思で選ぶ権利があります。
5. 自分が受けている診断や治療について、他の医師の意見を求める権利があります。（セカンドオピニオン）
6. 自分が受けている医療を知るために、診療記録の開示を求める権利があります。
7. 研究途上にある医療に関して、目的や危険性などについて十分な情報提供を受けたうえで、それを受けるかどうか決める権利と、何らの不利益を受けることなくいつでも中止を求める権利があります。
8. 診療の過程で得られた個人情報の秘密が守られ、病院内での私的な生活を可能な限り他人にさらされず、乱されない権利があります。

トピックス&ニュース

4月より、セカンドオピニオン外来を始めます。

セカンドオピニオンとは

自分の病気や受けている医療の理解を深めるため、主治医以外の専門医の意見を聞いて、情報を集めることです。

セカンドオピニオン外来では、当院以外の主治医におかかりの患者さまを対象に、診療内容や治療法に関して当院の専門医が意見や判断を提供いたします。その意見や判断を患者さまご自身が今後の治療に際して、参考としていただくことが目的です。

当院の専門医は患者さまのお話や主治医からの検査資料の範囲で判断をすることになり、原則として当院で新たな検査や治療は行いません。

また、転医をお勧めすることはありません。

最初から当院での治療をご希望の場合は、セカンドオピニオンの対象とはなりません。

相談を受けられる方は

患者さまご本人を原則とします。

ただし、患者さま本人の「相談同意書」をお持ちになれば、ご家族だけでも受診ができます。

当院での対象診療科は

外科・整形外科・心臓血管外科・脳神経外科・呼吸器外科・消化器科・泌尿器科・耳鼻咽喉科です。

相談は

完全予約制です。

お問い合わせ先は

地域医療連携室、セカンドオピニオン担当

（受付時間：平日8：30～17：00）

電話 078-241-9273（直通）



第14回HAT健康セミナー報告

「頭痛・めまいについて」

日常よくみられる「頭痛・めまい」ではありますが、その中には危険な病気の予兆を示す場合があります。

2月7日のセミナーでは、頭痛・めまいの原因、症状、検査、治療法から危険な頭痛・めまいを見分けるコツについて、山下脳神経外科部長からお話がありました。



頭痛の大多数を占める片頭痛、緊張型頭痛については、パンフレットを加えての説明がされ、危険な症状（頭痛・めまい）については徐々に悪化すること、いつもとは違うことに注意が必要である、と強調されました。症状への対処に役立つ健康セミナーであったと思われます。

心配な症状を覚えられましたら、受診してください。神経内科、耳鼻咽喉科、眼科、心療内科など、各科の協力に対処いたします。